

連合「2016平和行動in根室」開かれる

日本固有の領土返還を求め1,200名が結集!

～連合福島派遣団として7名が参加～

連合は、6月～9月にかけての平和行動月間の締めくくりとして、北方四島の早期返還と日露平和条約の締結による真の友好関係の構築をめざし、9月10日～11日の2日間、北海道の根室の地において、平和集会「連合2016平和行動in根室」を開催した。連合福島からは、福島地区連合伊藤議長を団長として、各地区連合から7名が派遣団として参加した。初日の10日には北方四島学習会が開催され、子供の頃に島を追われた経験をもつ方をモデルとした映画「ジョパンニの島」を鑑賞、その後「次代へ受け継ぐ平和への



平和集会会場の四島のかけ橋前にて

歩み」と題して、パネルディスカッションが行われ、強制的に故郷を追われた元島民の当時の体験や苦しみ・憤りなど、直接当事者から話を聞くことができた。11日は、納沙布岬において、青空のもと歯舞群島や遠くに国後島などを望みながら、全国から1,200名が集まり、平和集会が開催された。戦後71年を迎え、元島民の方も平均年齢が81歳となり、集会で元島民



主催者を代表し挨拶する連合逢見事務局長の鈴木咲子さんは「一人でも多くの元島民が元気なうちに、自由に島に行けるように返してほしい」と早期返還実現を訴えた。集会の最後には「現地で感じたことを地域・職場・家庭で共有し、粘り強く返還運動に取り組む」ことを誓うアピールを参加者全体で採択した。



参加者は、あらためて

日本固有の領土である北方四島が、旧ソビエト連邦に不法に占拠された現実を再認識し、この歴史を若い世代にも正しく伝え、風化させてはならないことを強く感じ、地域・職場で返還運動、そして平和運動に取り組むこと決意し、帰路についた。



北方四島の早期返還を訴え、ガンバロー三唱